

知事と区市町村長との意見交換会(武蔵野市)

令和2年10月6日(火)

14時10分～14時30分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いいたします。

○**知事** 松下市長、お元気そうで何よりでございます。

○**武蔵野市長** こんにちは。

○**知事** 今日はよろしくお願ひいたします。

○**武蔵野市長** はい。よろしくお願ひ申し上げます。

○**知事** 現在はもう新型コロナウイルスとの厳しい戦いが続いております。そして感染の拡大の防止と、そして社会経済活動のこの両立を図るという、ウィズコロナの社会をいかにして生きていくか、いかにして作っていくかが、まさに都としても、また市としても問われているわけでありまして。

そういう難局にあつて、東京都については都政の構造改革を強力に進めていく。そしてそれを梃子として新しい日常やサステナブル・リカバリー、こういった新たな視点でもって長期戦略を描いていくということで、今日は武蔵野市の現状について、また様々なコロナ対策もあります御要望等も伺いつつ、この後のオール東京でもって東京都をどのように進めていくのか、そういった点を武蔵野市の御意見、御要望ということで、直接お伺いする機会でございますので、どうぞよろしくお願ひをいたします。私から冒頭の御挨拶です。よろしくお願ひします。

○**武蔵野市長** はい。お願ひ申し上げます。

○**行政部長** それでは松下市長、御発言をお願ひいたします。

○**武蔵野市長** はい。かしこまりました。本日は貴重なお時間を頂戴いたしまして、ありがとうございます。また、小池知事におかれましては、新型コロナウイルス感染症対策に御尽力いただきまして、誠にありがとうございます。

今日は3点、武蔵野市から意見交換として、この新型コロナウイルス感染症対策に関連して、お話をさせていただきたいと思ひます。

まず一点目といたしまして、多摩府中保健所の体制強化についてでございます。武蔵野市を含む多摩地域の6市が多摩府中保健所の管内でございます。保健所を持たない、武蔵野市のような自治体と、23区及び保健所を持つ町田市や八王子市のような自治体との情報格差が非常に大きいと感じております。

死亡、重症、中等症、軽症、無症状や感染経路等の基礎データを分析し、保健所を持たない自治体が正確に状況を把握できるような情報提供体制を求めているところでございます。

本市を所管します多摩府中保健所につきましては、私どもで東京都市部近隣区の保健所

管轄区域内人口を作成いたしました。こちらを御覧いただきますと多摩府中保健所管内の人口は104万人と、東京都内で最大の人口でございます。多摩府中保健所のお隣でございます世田谷区は92万人。また杉並57万人、練馬区74万人。また他の多摩小平、多摩立川、南多摩等の保健所と比べましても、群を抜いて管内の人口が多いという現状がございます。

こうしたことから、やはり市民の皆様から新型コロナウイルス感染症に関して、保健所を持たない自治体として、様々対応に苦慮もしているところでございます。

東京都から様々な情報提供を、9月8日からは新たに週報ですとか、感染状況、療養状況、一人別の公表を開始していただいておりますので、その情報を元に市としても公表をしております。

都庁からの情報や感染者の情報等を整理、分析できるような多摩府中保健所の人員体制にさせていただきたいと思っておりますし、この104万人という人口に見合った、緊急時等に対応できる体制の強化をお願いしたいと思っております。

具体的な要望内容といたしましては、都からの症状や感染経路等の詳細情報の迅速な提供と、検疫の感染状況を踏まえたタイムリーな感染症対策方針の明示。また、検疫の感染状況を分析、対応策検討、各市への情報提供を行う保健所職員の体制整備と人員増、緊急時に対応できる柔軟な人員配置。現在の東京都多摩府中保健所、武蔵野・三鷹地域センターが武蔵野市内にございますが、こちらを緊急対応として、武蔵野・三鷹をエリアとする感染症対策の機能を持った支所として拡充していただきたいと思います。

この間も、多摩府中保健所の職員の皆様には様々、武蔵野市内で感染者、PCR検査の陽性者が発生した際の濃厚接触者の特定ですとか、検査の拡充等、御尽力をいただいております。平日、土日、昼夜問わず御尽力をいただいておりますことは、大変心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

更に今後も、知事は冒頭、ウィズコロナの時代をどう東京都として対応していくかというお話がございましたが、このコロナ禍というのはまだまだ続くと思われるので、市民の皆様のご生活と、そして経済活動を両立させていく上でも、多摩府中保健所の体制強化を切にお願いするものでございます。

続きまして二点目が、新型コロナにより影響を受ける医療機関への補助についてでございます。現状といたしまして、新型コロナによる様々な影響により医療機関、特に病院の経営が非常に逼迫をしております。

武蔵野市でもある二次救急病院の存続が非常に危ぶまれる状況となっております。これは都内、また全国的にも同様な状況であると思っておりますが、都民、市民の命を守るためにも、市内の医療体制を守るため、新型コロナウイルスに対応する医療機関はもちろん、新型コロナ対応ではないが、救急受け入れで様々な影響を受けている医療機関に対しても、受けた影響の全額の補助をしていただきたいと思いますという要望でございます。

続きまして三点目がPCR検査体制の強化についてでございます。武蔵野市では市民の皆様が必要な時に必要な検査を受けられるよう、一日最大500件のPCR検査体制を整えるた

めに様々な支援を行っております。PCR 検査を行う市内医療機関への支援として、市内で PCR 検査、唾液検体を実施する 33 の医療機関に対して、検査体制を整備するための補助金を交付しております。市民がかかりつけ医等の身近なクリニックにおいて、安心をして医師の指示の下、検査が受けられる体制を整えております。

続きまして、感染症指定及び救急医療機関への支援として、感染症指定及び救急医療機関に対して、病床数に応じた補助金を武蔵野市として交付をしております。コロナ禍において、コロナの疑い患者も含む救急医療に従事していただいている医療機関を支援するとともに、PCR 検査の体制整備も行っております。

武蔵野市 PCR 検査センターも設置しております。武蔵野市医師会と共同により、市内医療機関の敷地に PCR 検査センターを本年 5 月に設置し、多摩地区においてはいち早く検査体制を確立するとともに、現在においては自施設で PCR 検査を実施していない医療機関に代わり、PCR 検査を実施しております。

また、子供が通う施設等での感染拡大防止のため、PCR 検査の実施をしております（※実施する体制を整えております）。子供が通う施設等での感染拡大防止のため、保健所が濃厚接触者とししない者に対して、市独自に PCR 検査を実施したい考えです（※します）。子供が通う施設等でのクラスターの発生を抑止するとともに、市民の安心感にも寄与するものでございます。

要望といたしましては、感染症対策というのはやはり広域で行うべきものでありますが、自治体、基礎自治体、私たち武蔵野市が行う様々な取組に対しても、支援をお願いしたいと思っております。

これからの今のコロナ禍において、PCR 検査体制の充実と適切な情報開示というものが、感染拡大防止対策には非常に重要であるとの考えの下に、様々な対策を行っているところでございます。御清聴ありがとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○行政部長 松下市長、どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 市長、ありがとうございます。また、武蔵野市として PCR 検査センターの設置であるとか、検査体制を充実させ、またレモンキャブの運行協力とか、手話通訳者等々、いろいろ工夫をされておられることに敬意を表したいと存じます。

また、新型コロナウイルスの感染症拡大防止のためには、何よりも連携が必要かと思えますし、また、武蔵野市市民、都民に正しい情報を伝えていくということは基本かと、このように意識を共有したいと思います。

お話にもありましたように、都の保健所からは今週一で、まさしく週報、ウィークリーで、連絡等を通じて情報提供を行っておりますけれども、この頻度を更に増やしまして、意見交換様々な形で行って参りましたものをベースに、平日に毎日御提供できる体制を整えているところであります。

それから毎週モニタリング会議をいたしておりますのは、御承知のとおりであります。それによって都内全域の感染状況の分析と評価を行っているわけであります。感染拡大の

防止と、それから冒頭申し上げましたように社会活動の両立、この二つを同時に進めるといことで、世界各国また各地でいろんな試行錯誤等が続けているわけですが、やはり最後おっしゃいましたように、都民に対しての正確な情報を共有できる体制というのは、何よりも感染拡大の防止の、繰り返しになりますけど、ベースかと思います。

それから都としての感染対策をより深めていく、確実なものにするためにも、また適正な情報提供に努めていくためにも、今月の1日に東京 iCDC という、政策提言機能も、また有事の際の一つの司令塔も立ち上げたところであります。感染拡大の状況に応じて、また武蔵野市とも連携しながら感染症の対策を進めていきたいと考えております。

それから二つ目ですけれども保健所、先ほどの地図と人口の比較が分かりやすくされておりました。保健所というのは、今回も大変重要な役割を担っているわけでありまして。そして最前線で保健所の皆さん、保健師をはじめとする皆さんは奮闘しておられると同時に、その負荷も大変高いということでもあります。

そして感染拡大等の状況に応じて保健所内の応援体制を構築すると同時に、保健師さん、看護師さん等の会計年度任用職員を採用したり、また人材派遣職員の活用等を行っているところであります。

保健所支援拠点の設置、そして他の局から、今まさに療養施設等はオール都庁の職員、それぞれ駆り出してあたっているわけでありまして、局を超えて職員派遣等を行って、保健所の体制強化を行っているところであります。

ちなみに多摩府中の方にはトレーサー、特にこちらはずっと誰から、どういう行動で誰といて、どうしてこうしてという、かなり手間のかかる作業ですけれども、これをトレーサーの方々を多摩府中の方にも送らせていただいて、実際に強化に努めているところであります。

それから都の保健所が行う PCR 検査の一部委託化を進めるというわけで、様々業務のデジタル化の推進をしていく。そして負担軽減をどのように図るか、業務をどのように効率化するかということで、日々それらの改善に努めているところであります。

それだけに現場の市民の皆さんの声等も今日も市長を通じて聞かせていただいたかと思っておりますので、これらについても更に努めていきたいと思っております。強化をすると同時に、保健師さんも本当に24時間負担が多いと思うんですね。そういったところをIT化等更に進めることで、負担を減らすという工夫を行っているところであります。

それから医療機関への補助についてであります。これまでも複数回に渡って都の補正予算を組んできたところであります。それによって、新型コロナウイルスの感染症患者を受け入れている医療機関に対する支援を実施しております。

病床の確保料であるとか、設備の整備費、陰圧室を作るとか、いろいろ費用も掛かっているわけで、これらの補助、それから入院患者を受け入れた医療機関に対しては、経営基盤の包括的な支援ということで、臨時支援金を交付いたしました。更に引き続きの医療機関の支援をして参ります。

それから厚労大臣、経済再生担当大臣、このコロナの担当大臣ですけれども、要望を行

っております。7月4日付けなんですけれども、その中で通常診療を含めて医療提供体制が確実に維持されるようにということで、医療機関の実情を踏まえた支援策の拡充については、国に対して要望も行っているところであります。

それから先ほどもPCRについては、一日500件というお話がございました。都はこの検査についてでありますけれども、医療機関それから武蔵野市がまさに迅速に行われた地区の医師会等と連携してのPCRセンターでありますけれども、これについても補助を行わせていただき、また、患者さんや感染が疑われる方の受入医療機関に対しても、病床の確保料、設備の整備費の補助を行って参りました。

それから医療機関等が感染拡大の防止対策、診療体制の確保等の経費の支援。それから医療機関、検査機器の整備をする支援。本当にコロナというのはこういうことが起こるのかと、感染症の恐ろしさと言いましょか、どこまで何をすべきなのかが、手探りの中で進めてきているようなところもあります。

様々クラスターが発生した例等も、現在もまだ時折りポコッポコッと出るものですが、それぞれ体制の整備に迫られるわけですが、いろいろ都としても動画を作成したり、そういうクラスターが発生しないような皆さんに現場において努力していただかなければならない点について、いろんな形でサポートをいたしているところです。また引き続き、武蔵野市の取組、様々工夫をしておられるわけでございまして、これらについて都としての支援をしていくようにいたして参ります。

それから副知事の方からも発言がございまして。

○副知事 多摩府中保健所の強化策ということにつきましては、今知事からお話を申し上げたとおりでございまして、人員体制の強化でありますとか、新しいシステムの導入というのを鋭意やっていきたいと思っております。

その一方で既存資源の活用というような視点もあるかと思ひまして、多摩府中保健所管内のいわゆるランチというのも幾つかありますので、その活用というお話も承っているようでございますけど、まずは今の事態にすぐ対応するというのも大事でございます。そういった人員体制等をまず重点的にやって参りたいと思っておりますけれども、そういった御提案についても、また今後の研究課題として取り組んで参りたいと思っております。以上でございます。

○行政部長 松下市長、今の話を受けていかがでしょうか。何かございましたらお願いします。

○武蔵野市長 ありがとうございます。最後、副知事からランチ活用の研究ですね（※に言及いただきました）。現在東京都多摩府中保健所、武蔵野・三鷹地域センターとなっております、この地域センターの現在行っている業務は食品衛生等が中心かと思ひますが、是非感染症に関しても活用できる部分がございましたら、研究、検討の旨、引き続きよろしくお願い申し上げます。

市民の皆様、都民の皆様の安心感を高めるための取組を、ともに力を合わせて行っていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○行政部長 どうもありがとうございます。それでは最後に知事からお願いいたします。

○知事 目下コロナ対策が喫緊の課題であることは言うまでもありません。また、今日、市長の方からもお話ありましたように、多摩府中のこの土俵が非常に広いと。それだけに現場の方は非常に負荷が掛かって、そしてそれを対応に当たっているところで、それだけに都直轄でもございますので、人の配置を手厚くしたり、また分厚くしたり、またトレーサー班というものを作って送り出したり、いろいろ工夫を重ねているところです。

それからアプリ等によって、まさしく負荷を減らす、ICTを使った形での対応ということも行っているところであります。これを使い勝手をよくすることで、特別区の方にも横に広げていくということも可能かというふうに考えております。

今後インフルエンザと、そしてこのコロナとの同時流行等も想定しながら、対応をより充実をして改善をしていくということが必要になっておりますので、今日の御意見等も含めて改善すべきところ、早急に行っていくと同時に、やはり武蔵野市は市長のリーダーシップでいろいろと新しい取組も行っておられます。これからのテレワークがこれだけ拡大もし、今後定着が必要になってくる中において、働き方、また女性の働き方、子育て等にも、ウィズコロナ時代というのはこれまでにない発想も必要になってくるかと思えます。

まさしく長期戦略にそういったものを盛り込んでいきたいと考えておりますので、引き続きまた武蔵野市とも連携をしながら、長期に渡るビジョンを描き、実践をしていきたいと思っております。これからもどうぞ御協力のほど、よろしく申し上げます。ともに頑張ってください。ありがとうございます。

○武蔵野市長 ありがとうございます。

○行政部長 それでは以上で意見交換を終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。